

様式第 4 号

課題名	当院における鈍的外傷による腸間膜損傷症例の検討
承認番号	2018-94 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 救急科 氏名 高橋哲也
研究期間	(西暦) 2019 年 3 月 ~ (西暦) 2021 年 3 月
研究の意義・目的	腸間膜の形態は CT では確認できないため、腸間膜損傷の早期の確実な診断は困難です。一方で鈍的損傷における腸間膜損傷の発生頻度は低いため、単一施設当たりの経験数も少ないです。また、腸間膜損傷には腸管損傷が伴うことがあり、注意を要します。日本外傷データベースから腸間膜損傷症例を集積することはできますが、その施設の症例および診療の特徴を把握し、腸間膜損傷の正確な情報を共有することに意義があると考えます。本研究の目的は、当院における鈍的損傷による腸間膜損傷症例の特徴を検討することです。
研究の方法 (対象期間含む)	調査期間：2005 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日 実施施設：横浜市立みなと赤十字病院 検討項目：以下を電子診療録を用いて調査します。 ・年齢、性別、受傷機転、受傷～当院までの時間、当院来院時バイタルサイン、手術前の人工呼吸管理の有無、日本外傷学会臓器損傷分類 2008、併存損傷部位、injury severity score、revised trauma score、probability of survival、転帰、当院来院時造影 CT で腸管損傷を示唆する所見数、開腹理由 以下を比較検討します ・手術施行群と保存的治療群の比較検討 ・腸管損傷合併群と非合併群の比較検討
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	腸間膜損傷症例がどのような状態であったのかを検討します(具体的な項目は下記参照)。 個人が特定されることのないように、情報の匿名加工又は非識別加工します。
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、受傷機転、受傷～当院までの時間、当院来院時バイタルサイン、手術前の人工呼吸管理の有無、日本外傷学会臓器損傷分類 2008、併存損傷部位、injury severity score、revised trauma score、probability of survival、転帰、当院来院時造影 CT で腸管膜損傷を示唆する所見数、開腹理由
試料・情報を 利用する者の範囲	救急科 高橋哲也、救急医、外科医
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	救急科 高橋哲也
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 救急科 氏名 高橋哲也 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101